

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第188号

ななえ古写真物語 VOL.188

旧三嶋神社のイチョウ

町を見守る古木
昭和40年代か
本町地区

姉妹都市であるアメリカのコンコード町を訪れた時に印象的だったのが、推定100年は超えているだろうことを、幹回りの太さを見ただけでも、容易に判別できる街路樹がそこかしこにあり、そこに住まう人々が、古木の大切さを理解し敬い、共生するのが当たり前という感覚を持って、木々に接している姿を目の当りにしたことだ。これら古木が、街並みに彩りをあたえつつ歴史と文化の薫る街並みが育まれてきたのだなと感じた。

同様に、私たちの七飯町にも町のあちこちに、歴史ある木々が残されていることに気づかされる。過去のピチャリ誌面上でも、ガルトネルブナ林や、赤松並木、すでに枯死してしまった一本栗や袈裟懸けの栗など、歴史の重みとストーリーを感じさせる木々の話を綴ってきたが、今回は、それらの中でも、最も巨木、そして古木であり、後世に残さなくてはならないイチョウの木を紹介する。

現在も、七飯中学校に隣接する場所にあるこのイチョウの木は、草創時の三嶋神社がこの場所に建立した時に植栽されたと伝えられる。草創は天文元年（1532年）なので、口碑通りだとすれば、樹齢500年近い計算となり、毎年秋になると大量の銀杏を地面いっぱい落としてくれる。写真のイチョウは昭和40年代に撮影されたものと考えられるので、枝ぶりも今とは異なり、少しコンパクトな印象がするが、さらに圧巻な風貌を備えた現在のイチョウの姿は、どこの町にも引けを取らない歴史の重みを感じさせる。



Nanae Historical
Museum Collection

残念ながら、三嶋神社の社殿は明治後半に火事に遭い、国道5号沿いへ移転、そして現在の場所となったが、残されたイチョウは健在である。七飯町の移り変わりを誰よりも長い間見守ってきた生き証人であり、また町の歴史を年輪に刻んできた古木といえる。その点においても、人とは異なる時間軸で生きる存在に対し、私たち人間は敬意を払うべきなのだろう。私たちは、科学的に分析することで世の中の事象を理論的に知ることになった。しかし、同時に人間は、言葉を発さず、自ら動くことのない植物に対し、傲慢で自分勝手な理論で都合よく伐採するようになったのかもしれない。

残念ながら先に般、七飯町では樹齢100年超の古木の並木が伐採された。利便性や利潤を求め、先に生きてきた木々への敬意を失った行為は、後世の人々の学びになるのだろうか？ 私たちは一度立ち止まり、深く熟考する時間を持つべきであると、強く感じる。

5日夜の博物館第2夜

「発掘にみる五稜郭」と題し、函館市教育委員会の学芸員野村祐一氏に平成11年から携わった五稜郭内の発掘調査でわかった奉行所の復元根拠となった古写真や古文書、出土された謎の埋め糞、微妙に色の違う瓦などの例を出し、わかりやすく受講者にお話して頂きました。現在の奉行所の復元に関わった苦勞を聞くと、この先五稜郭を訪れたときに見る景色は少し変化があるかも知れません。夜の博物館は、専門分野に長けた講師の「知」に触れ、その世界を冷静に見る「眼」を養える時間です。



29日 ジュニア探検クラブ

駒ヶ岳登山を行いました。抜けるような青空、30℃を超える気温。若干の不安を抱え、植物の観察をしながらゆっくりと足を進めました。山の頂から見る馴染みの景色は、いつもとは異なって見えたと思います。汗をかきながら登り、風吹く頂上で皆でお弁当を食べ、滑る登山道を、転んでしまっても元気に降りてきた子どもたち。さわやかな笑顔に達成感溢れる表情は、生き生きとした夏の時間でした。



テーマ展「自然って何だろう？」を開催中です。

漠然としたテーマでどんな内容かあまり検討が付かない方もいるかも知れません。この展示では、身近な自然にもっと目を向けてもらうきっかけになったらと、工夫をしています。文学が好きな人なら、自然に関する言葉、植物や昆虫、鉱物が好きな人なら標本、鳥が好きな人なら剥製など、それぞれ興味のある分野だけ見るだけでも、新たな気づきがあるかも知れません。是非足をお運び下さい。



編集後記 ~tawagoto~

夏休みを利用し、室蘭線に乗った。車の移動が多い普段とは、景色を見る角度も時間の流れも違う。各駅停車の一両編成。ボックス席に座ると、後ろの席から青春18きっぷを利用して旅をしている大学生が、乗りあった男性に旅の計画を話しているのが聞こえる。海沿いの漁村の景色とトンネルに入る前の警笛、秘境駅の佇まい。幅広い年齢層の人が乗り降りする人の行き交いを見て、たまには住んでいる土地から離れて列車に乗るのも良いものだと感じた。

9月の予定

1	金	テーマ展開催中 (~9/10)
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	
6	水	夜の博物館
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	テーマ展最終日
11	月	
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	敬老の日
19	火	
20	水	ピチャリ第189号発行
21	木	
22	金	
23	土	秋分の日、ジュニア探検クラブ
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	

※9月の休館日はありません

立体乾燥標本

色褪せていく魅力もあるかも知れないけど、できれば見たままの感動も残したい。シリカゲルを使い制作しまし



Pichari

~ピチャリ~

第188号

令和5年8月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp